

【患者】 30 歳男性

【主訴】 発熱、筋肉痛、関節炎、発疹

【現病歴】 IV drug 使用歴のある 30 歳男性。

入院 1 ヶ月前に、wheezing、安静時呼吸困難、頭がくらくらする感じ、乾性咳嗽（発熱・悪寒なし）があったが、その後入院 12 日前（detoxification clinic から退院した 2 日後）までは通常健康状態であった。

入院 12 日前、ヘロインを経静脈的に自己注射した。その 2 日後から、発熱、悪寒、咳嗽、筋肉痛、食欲不振、倦怠感が出現し、次第に関節腫脹・関節痛、赤く掻痒感を伴わない皮疹、著しい発汗が認められるようになった。関節症状は足首から始まり、入院前の 3 日間で膝、手、肘まで及び、腕と脚の脱力感を伴った。

入院 2 日前、他院の救急を訪れた。体温 38.3°C、白血球数正常、ALT 110 U/L、AST 73 U/L であったほかは血算・生化学は正常であった。胸部 X 線撮影、ECG、経食道心エコーいずれも正常と報告された。ウイルス症候群と診断され帰宅したが、発熱は収まったものの痛みは増強し、脚よりも腕の痛みがひどくなった（10 を最強の痛みとして 0-10 で評価した場合の 10）。歩行は関節症状のために小さい歩幅で慎重であり、腕を頭の上にあげる・コーヒーカップを掴むという動作ができなかった。その後当院の救急を受診した際、患者は目の充血と首の痛みを訴えていた。入院後、アセトアミノフェンとオキシコドンが投与された。

陰性症状：頭痛、咽頭痛、鼻汁、副鼻腔炎、耳鳴、体重減少、感覚障害（嗅覚・視覚・聴覚・味覚）、消化器・泌尿器機能の変化

【既往歴】

IV drug×10 年、needle-exchange program への参加、detoxification program に 15 回参加（今回の症状が始まった 3 日後からメサゾン開始）

片頭痛

頑固な Raynaud 症状

顔面と鼻梁骨折治療後に繰り返す鼻出血

手首骨折

IV drug 後の左腕膿瘍

HCV 感染疑い

【家族歴】 父：冠動脈疾患（30 代で 1 回目の心筋梗塞） 母・姉妹など母方の親族多数：糖尿病
姉妹 1：SLE、 姉妹 2：湿疹、甥：川崎病

【生活歴】 無職、母親と同居、sexually active（避妊なし）

【アレルギー】 なし

【内服薬】 筋肉痛に対してイブプロフェン

【入院時身体所見】

<Vital> BT 37.2°C, BP 133/88 mmHg, pulse 106/bpm, RR 20/min, SpO2 96%(room air)

<HEENT> 眼球結膜充血、歯少ない

<Respiratory> 呼吸音粗、mild wheezing

<Abdomen>肋骨縁下に肝臓を 2cm 触れる、圧痛(+)

<Extremities & Joints>

四肢と体幹前部に発赤と脱色のある網状の丘疹

手・肘・膝・足首の関節は腫脹し暖かく、手首・MCP 関節・足首には滲出液あり

大関節の自発運動は著名な痛みを伴う

頸椎を含めて受動的な関節可動域は Full

四頭筋とふくらはぎで特に強い全身の筋肉痛

1+の浮腫

<MMT>

腕・手の屈曲と伸展：4

<Neuro>

腕橈骨筋反射・膝蓋腱反射：3+

<Gait>

足を開いて小さい歩幅で歩行

【入院時検査所見】

Table1 参照

陰性と判明しているもの

RF、抗 CCP 抗体、抗 ds-DNA 抗体、HIV-1, HIV-2 抗体, HIV-1 RNA ウイルス (6 か月前)、クリオグロブリン、梅毒

<尿検査>

わずかなウロビリノーゲンが検出された以外は異常なし

<血液培養> 陰性

<胸部 X 線写真> 正常

Table 1. Laboratory Data.

Variable	Reference Range, Adults*	On Admission
White-cell count (per mm ³)	4500–11,000	8400
Differential count (%)		
Neutrophils	40–70	75
Lymphocytes	22–44	17
Monocytes	4–11	5
Eosinophils	0–8	2
Basophils	0–3	1
Platelet count (per mm ³)	150,000–350,000	386,000
Erythrocyte sedimentation rate (mm/hr)	0–17	22
Glucose (mg/dl) †	70–110	125
Aspartate aminotransferase (U/liter)	10–40	133
Alanine aminotransferase (U/liter)	10–55	190
Antinuclear antibody	Negative at 1:40 and 1:160 dilutions	Positive at 1:40 and 1:160 dilutions, speckled pattern
Complement (mg/dl)		
C3	86–184	119
C4	20–58	28

ここで、ある診断的手技が行われた。

- プロブレムを挙げて下さい。
- 鑑別診断を考えて下さい。
- 必要な検査とは？